



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 神山宇宙科学研究所 開設記念シンポジウム 14:00~16:30
3 ×	4	5	6	7	8	9
10 ×	11	12	13	14	15	16
17 ×	18	19	20	21	22	23
24 ×	25	26	27	28	29 ×	30 ×
31						

施設見学 9:00~16:30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30~20:00

天体観望会 18:00~20:00
(定員あり/要予約)

× 休館日

月の形 (満月・新月・半月および
観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階常設展示フロアでは「望遠鏡 × 宇宙探査」、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。
(コンテンツは予告なく変更する場合があります)

よくある質問?

観望会でよく聞かれる
質問にお答えします★

❓ 冬の夜空は華やか?

冬の星空には、他の季節よりも明るく見える星が多いので、星座の形もわかりやすいものが多いです。寒いですが、星が1年で最もきらびやかに見える季節ですので、ぜひ冬の星空を見上げてみましょう。

❓ 流れ星を望遠鏡で見たい!

荒木望遠鏡を使って、流れ星を見ることができればどんなにきれいだろう…☆とはいえ、とても難しいことです。流れ星が光るのは1秒以下から長くて5秒程度と短く、いつ、どこに流れるかも誰にもわかりません。流れ星に気づいてから望遠鏡を向けるのでは遅いのです。また、望遠鏡の視野はとても狭いため、偶然流れ星が入ってくるのを待つのも大変です。流れ星は、高い建物や木がない空の開けたところで、空全体を見ながらゆっくり待つのがおすすめです。
12月13、14、15日ごろはふたご座流星群のピークで、毎年たくさん流れ星が見えます。今年は月明りのない絶好の条件です。暖かい服装で、流れ星を待ってみましょう!

❓ 星ってどうして明るさがちがうの?

星の明るさは「星までの距離」と「星自身の明るさ」で決まります。同じ明るさの星でも、遠くにあれば暗く、近くにあれば明るく見えます。そして、もともと暗い星でも近くにあれば明るく見えるし、もともとは明るい星でも遠くにあれば暗く見えます。同じような明るさに見える星でも、たとえば、シリウスは光の速さで9年くらい、デネブは1800年くらいかかるところにあります。ということは…実はデネブがとっても明るいんですね! 電球などをつかって実験してみましょう!

神山天文台サポートチームが活躍!

学内外イベントのご案内

冬もイベントたくさん! 神山天文台サポートチーム (通称神サポ) が学外へお出かけし、子ども向けの体験イベントに出展予定です。ぜひご参加ください! (詳しくは各イベントHPを参照ください)



岩倉図書館 天文教室

「楽しい天文教室」

日時: 12月14日 (木)

17:00~18:30

対象・定員: 小学生15名

会場・申込み: 岩倉図書館

ベツレヘムの星

クリスマスツリーのでっぺんにある星はベツレヘムの星を表してるって知ってた?

ベツレヘムの星とは?

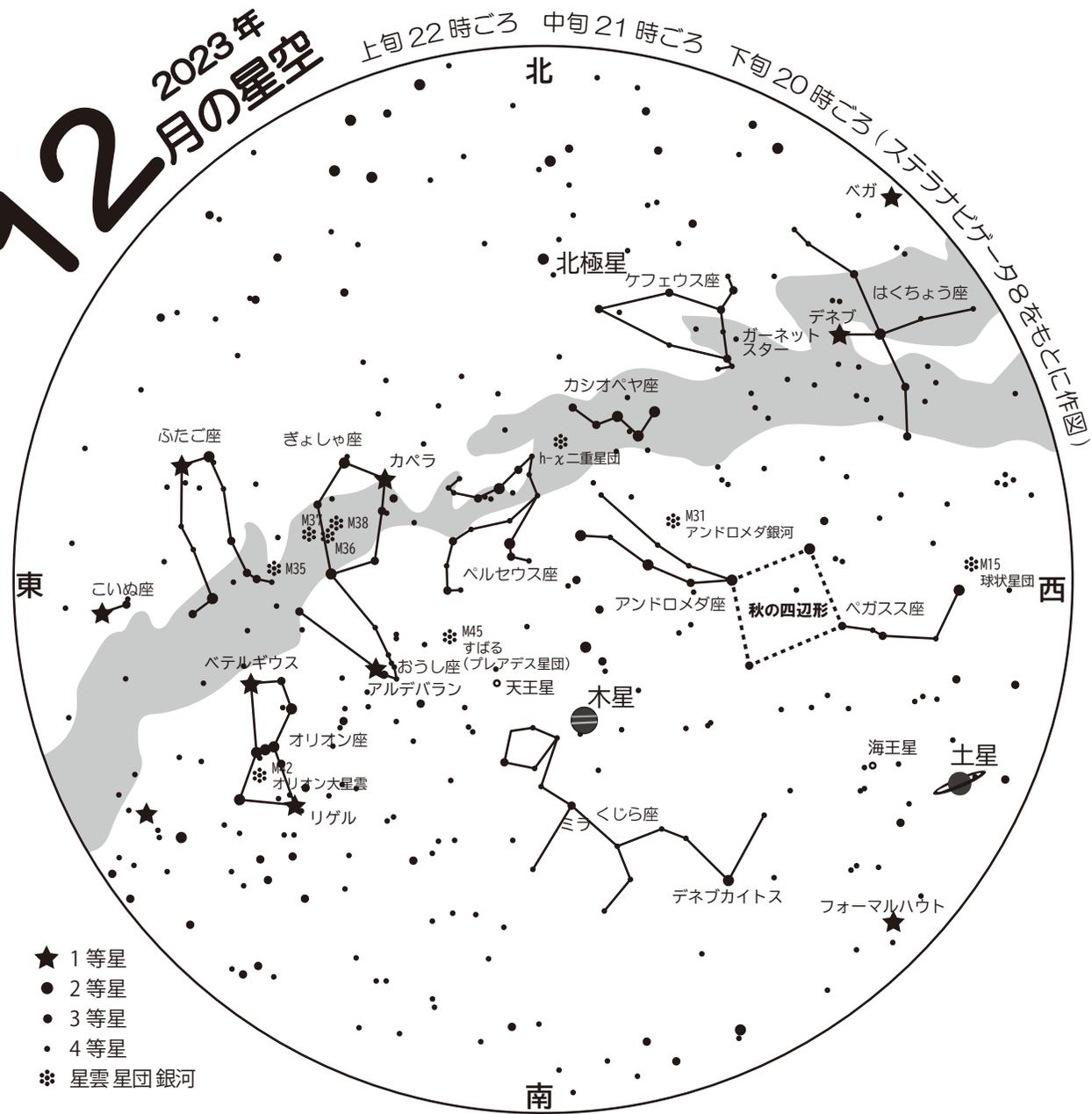
イエス・キリストの誕生時、東方の三博士が生まれたばかりのキリストに会いに行く際に目印にしたとされている星のことなんだけど、

その星の正体には色んな説があって、未だ解明されていないんだ!

クリスマスの夜はイルミネーションもいけど星をながめてみるのもいいかもね!

2023年 12月の星空

2023年12月 見ごろの天体



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

12月13-15日頃 ふたご座流星群極大

2023年のふたご座流星群は、12月15日4時頃にピークとなり、この前後でとても活発な状況となることが予想されます。12月13日が新月で月明かりの影響もなく、極大時刻にほど近い12月14日夜から15日明け方にかけては、たいへん多くの流星を観察することができそうな絶好の条件です。「街明かりの少ないところ(周囲の安全に注意!)」で「なるべく空の広い範囲(寝転ぶのもオススメ!)」を「長い時間」眺めていると、多くの流星に出会えるかもしれません。寒さが厳しいので十分な対策と、マナーと安全を守って楽しみましょう!

★**海王星 (かいおうせい) と天王星 (てんのうせい) : Neptune, Uranus**
 海王星と天王星は、地球と太陽の間の距離の約30倍(約45億km)と約20倍(約30億km)も太陽から離れて回る惑星です。肉眼で見えることはできませんが、大気に含まれるメタンが赤い光を吸収するため、望遠鏡でのぞくと海王星は青色っぽく、天王星は青緑っぽく見えます。天王星は自転軸が90度倒れた「横倒し」の惑星です。

★**木星 (もくせい) : Jupiter**
 木星は東～南の空に圧倒的な輝きで目立っています。木星は太陽系最大の惑星で直径は地球の約11倍もあります。望遠鏡を使うと、縞模様と周りをまわる衛星のうち数個を見ることができます。縞模様の正体は、大気中に含まれるアンモニアやメタンでできた雲の模様です。木星の特徴的な模様は大赤斑があります。大赤斑は周囲に比べ温度が低いことから高気圧性の嵐と考えられており、その大きさは地球のおよそ2-3倍もあります。

★**二重星 (にじゅうせい) : Double star**
 二重星は、肉眼では1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つに見える星です。アンドロメダ座のガンマ星(アルマク)は色の対比が美しい二重星です。2つの星の色の違いは、星の表面温度の違いを表しており、青い方が温度が高い星です。二重星は見かけ上、偶然近づいて見えるものと、重力により、お互いの周囲を回りあう連星とに分けられます。太陽程度の質量をもつ星では、連星はごくありふれた存在であり、北極星やふたご座のカストル(6連星)などがあげられます。

★**散開星団 (さんかいせいだん) : Open cluster**
 ペルセウス座にある2つの散開星団 h-x (エイチ・カイ) やおうし座のすばる(プレアデス星団・M45)、ぎょしゃ座のM36、M37、M38が見ごろです。h-xは、それぞれの星団には数十個から数百個以上もの星が密集しています。荒木望遠鏡では狭い範囲を拡大するため、2つの散開星団のうちどちらか1つを見ることとなります。少しずつ集まり方の異なるぎょしゃ座の3つの星団も比べてみましょう。恒星は、ガスの濃いところで集団で生まれ、h-x やすばるのような、若い星たちが集まった散開星団となります。やがて、散開星団の星たちは、時間が経つと少しずつ離れていくと考えられています。